

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 7 月 27 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、愛知県 日本モンキーセンター (Japan Monkey Center: JMC)
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ブッダセミナー ワークショップ：科学コミュニケーション
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 7 月 23 日
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター 大淵希郷 特定助教；日本モンキーセンター キュレーター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。
目的 本出張の目的は、愛知県の日本モンキーセンター (JMC) において、講義や園内での実習を通じ、科学コミュニケーションやファシリテーションについて理解を深めることである。なお、本ワークショップは、8 月に行われる「キッズジャンボリー2017」のファシリテーション研修を兼ねている。
所感 前半は、科学コミュニケーションの概要について講義を受けた。日本は欧米と比較して、主語よりも主題に重きをおくハイコンテキスト文化であること、また何かを説明する際はそのことを自覚することが重要であること、などを学んだ。普段意識することのなかった内容であり、勉強になった。 その後の実習では、来園者の調査を行った。報告者は、チンパンジー・ゴリラ・マンドリルが展示されているアフリカ・センターの周囲で調査を行った。チンパンジーのコードモ、マモル君は来園者の注目を集めると予想したが、実際には他の動物と比べて特別注目されているという印象は受けなかった (図 1)。実際に、来園者の方とお話してみたが、相手に興味をもってもらうことの困難さを実感した。 後半は、ファシリテーションについての講義を聞いた。ファシリテーションと司会進行との違いや、どのように相手に興味をもってもらうか、などについてお話を伺った。中でも、昭和の紙



図 1. チンパンジーのコードモ、マモル君 (右)。あどけない仕草、愛嬌のある顔は来園者の視線を集めると予想したが、予想よりも来園者の反応は薄かった (なお、写真は別の実習時に撮影したものである)。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

芝居の技術に関するお話は興味深かった。

本ワークショップの内容は興味深いと同時に、習得するのは非常に難しいように思われた。今後、プレゼンなどの活動において本ワークショップで学んだことを少しでも生かせればと思う。

6. その他（特記事項など）

本実習において、京都大学野生動物研究センター特定助教、日本モンキーセンターキュレーターの大淵希郷氏にお世話になった。また、ご協力いただいた日本モンキーセンター来園者の方々に深く感謝申し上げます。